

2022、3、1

直方ミニバスケットボールクラブだより

共育コラム









コロナ禍を経験したからこそ



ようやく、ピークアウトを確認できる数値が現れ始めた感じですね。このまま、しっかり下がることを期待したいです。まだ、ところどころで新規感染者も出ていますので、安心はできませんが、子どもの心身の成長にとっての最善を追及し、感染防止対策をとりながらバランスをとって、うまく乗り越えていきたいですね。

何度となく、活動できなくなることを繰り返すなかで、さまざまなストレスを感じながらもいろいろなことに気づかされました。子どもたちも体感していることと思いますが、子どもたちには、そのことを言葉にしてあげることで自覚することができ、自身の体験を貴重な学びとして置き換えることができます。

-  いろいろなことができなくなった経験をしたからこそ、今までいろいろなことができていたことに気づけた。
-  多くのやれなくなったことを経験したからこそ、本当にやりたいことは何かがわかった。
-  体を動かせない経験をしたからこそ、体を動かすことの心地よさがわかった。
-  おもいきり声を出せない経験をしたらこそ、おもいきり声を出すことの効果（意義）がわかった。
-  練習できない時期を経験したからこそ、練習しないと力や技術が低下することがわかった。
-  逆に言えば、練習することで力や技術をキープしたり向上させたりすることができていたことがわかった。

このほかにも、さまざまなことに気づけたり、分かったりしたことがあるのではないかと思います。コロナ禍での生活は一日も早く脱したいですが、否応なく経験しなければならなくなったコロナ禍での自粛生活、ただでは起きないくらいの気持ちで、新たな日常を迎えたいですね。

1月途中まで、今年度のチームづくり、プレーづくりの仕上げに入っていた時期でした。あとチームディフェンスを仕上げ、今年度のチームづくり完成というところまでできていた矢先の活動休止でした。約1か月のブランクを経て、残り少ない日数のなかで、チームとしてどこまで回復させ、どこまで向上させられるか、やってみなければ分かりませんが、子どもたちといっしょに最後までがんばってみます。特に6年生にとって、意味ある節目の時を迎えられることが重要です。中途半端な状態で終わってしまうと、これまで活動してきた意義を自覚できないままで卒部してしま

うことにもなりかねません。残り少ない活動日数ですが、せめてその期間しっかり活動して卒部の日を迎えられるよう、子どもの活動を後押ししてあげてください。

長期休止期間は日常活動の熟成期間

自由参加期間ですが、参加している子どもたちは、活動に関する確認を守りながら、自主的に体を動かし、一日一日感覚を取り戻しています。

長期の休みは、体力やプレーの質の低下など、マイナスにはたらく要素もありますが、意外と子どもの成長を確認する機会になり、プラスにはたらくこともあります。

年間を通じて子どもの心身の成長を促しています。具体の姿として子どもに求めているのは、いつも示しているように、「自分（たち）で考え判断し行動する」ということです。特に6年生、高学年の子どもたちに強く求めています。

6年生の姿として一番気にしてみるのには、活動を進めるためのリーダーシップのとり方ですが、休止前と同様、しっかりリードしてくれているので、その姿をたのもしく感じてします。

さらに、5・6年生の姿に成長を感じる姿を目にすることもできています。

- ・ 私がゴールの防護マットを修繕していたら、「先生手伝いましょうか」と自分から声をかけてきて、手伝ってくれます。
- ・ 体育館のすべてのバスケットボールに空気を補充していると、「先生、しましょうか」と自分から声をかけてきて、手伝ってくれます。
- ・ 今は、個別練習が主になっていることもありますが、自分も練習しながら、下級生の練習をみている、気づいたことをアドバイスしている姿があります。

私から、それらしいことを求め話していれば、このような行動が現れることは想定できますが、今回は、自由参加として活動を再開したばかりで、私からその質の話は何もしていないなかで、あたりまえのように、ごくごく自然に、そんな行動がとれるようになっている子どもたちの姿が、うれしくもあり、たのもしくもあり…すごいなあと思いました。こんな、子どものふとした姿（行動）に成長を確認することができます。

いったん、「通常」を離れていて、久しぶりに出会ったとき目にできるものは、ほんものだと思います。教員現職の時も、夏休みや冬休みなど、長期にわたる休みがあったあと、学期初めに再会したときに、成長したなと感じる姿（行動）を示してくれることがあったことを思い出します。子どもは学校に居るときだけ、指導をうけているときだけで成長しているのではなく、休みの期間、家庭での時間、自分だけの時間、その「時間」が、日常うけていた指導を自身のなかで熟成させる期間となり、成長を促していることがよくわかります。

